

デジタルアーカイブ利活用 I

～提示・提供、課題の解決、知的創造での利活用～

編著 櫛 彩見
(岐阜女子大学)

目 次

I. デジタルアーカイブの利活用の発展	1
1-1. デジタルコンテンツ利活用の特色	6
1-2. 資料(データ)とメタデータ	8
1-3. 資料(データ)の提示、課題の解決、知的創造	12
II. 資料の提示	15
2-1. 単体での提示(単体表示)	17
2-2. 構成された提示(構成表示)	23
2-2-1. リニア方式(直線形の資料提示)	26
2-2-2. ブランチ方式	33
2-2-3. 集合された提示(集合提示)	34
2-3. 資料提示の系列化	35
2-4. カタログ提示(リーフレットの利用)	39
2-5. メタ情報としてのオーラルヒストリー	48
2-5-1. オーラルヒストリーのデジタルアーカイブでの活用	48
2-5-2. オーラルヒストリーと地域資料	49
2-5-3. デジタルアーカイブ・ミニ(DAM)「木田宏教育資料」	56
III. 課題の解決での利活用	62
3-1. 課題の解決、創作活動等での資料の収集・活用	64
3-2. デジタルアーカイブを用いた課題の解決の手順	66
3-3. 実践事例	67
IV. 知的創造	72
4-1. 知的創造サイクル	74
4-2. 知的創造サイクルの具体化	75
4-3. 知の増殖型サイクル～PDCAサイクルとしての利用～	76
4-4. 実践例(知の増殖型サイクル)	77

V. 還元情報	93
5-1. 還元情報の必要性	95
5-2. 還元情報を集める～活用結果のデータの収集・保管～	97
5-3. 還元情報の分析・評価・改善	99
5-4. 新しい知の保管～還元情報の整理・記録～	105
VI. 選定評価項目と利活用	109
6-1. 保管・流通・利用目的	112
6-2. 慣習・権利(著作権、個人情報保護、プライバシー、所有権等)利益	114
6-3. 社会的背景	119
6-4. 文化的内容の適否	120
6-5. 利用者の状況(教育的配慮も必要)	121
6-6. 利用環境	121
6-7. 保管・安全上の課題(国内外の社会的背景・状況)	122
6-8. 人々の積極的参加へ	123
VII. 資料	127
資料1. デジタルアーカイブ利活用でのオーラルヒストリーの活用	129
資料2. Bellinger の DIKW モデルとデジタルアーカイブの利活用	131
資料3. 新しい処理の活用(知的活動へ)～AI,生成 AI,メタバース, パターン認識,ロボット等～	132
資料4. 木田宏教育資料・オーラルヒストリーのメタバースでの展開	133
資料5. 利活用の状況の計測～提示端末を利活用に利用～	135